

アピール

「PTA本来の役割を確認し、活性化をよびかけます」

先頃、区立和田中学校校長（当時）の藤原和博氏がマスコミにむけて突如「和田中PTAを同校地域本部の一部門『現役保護者部会』とする。杉中P協（杉並区立中学校PTA協議会）からは脱退し、PTA会長はおかない」と、事実上のPTA廃止を発表しました。この発表は区内だけでなく全国のPTAに衝撃を与えると同時に、多くの疑問点も指摘されています。

そこで、私たちは、PTAの意義と役割についてあらためて考えたいと思います。

（杉並のPTAが果たしてきた役割）

杉並区立各小中学校PTA、および小・中PTA協議会は、どの子にも等しく十分な教育を保障することをめざして活動し、大きな役割を果たしてきました。過去には、高校増設、栄養士の全校配置などの成果をあげ、また、環境を守るための高速道路建設反対運動など学校内にとどまらない活動を繰り広げてきました。

こうした活動ができたのは、PTAが学校の補助組織ではなく、会員自らが学び「人格識見の向上を図る」（杉並区教育委員会『PTAハンドブック』）自主的な社会教育団体として、発言、行動してきたからです。

活動の中で会員自身も成長し、PTAからは、町会や商店会、あるいは消費者運動、福祉団体など市民運動の中心で活躍する多くの人材を輩出してきました。杉並区の各分野でPTA活動の経験が生きています。

（校長主導のPTA「改革」でいいのでしょうか？）

今回の和田中の方針には見過ごせない重大ないくつかの問題があります。

具体的には、学校から独立した組織であるPTAを、単なる学校の「お手伝い」組織に変え、発言の場をなくしてしまう PTAを保護者組織に改組することで、PTAのTである教員を排除し、PとTとの関係を分断する P協からの脱退で、PTAどうしの横の連携がなくなる という点です。これらは、どれも、PTA活動の根幹を揺るがす問題です。

そもそも、PTA廃止を校長が独断で決定したことは越権行為です。PTA総会の議決も経ずに、校長が一方向的に発表したことは、PTAの民主的運営を根底から覆すものであり認められません。

（PTAのよりいっそうの活性化をよびかけます）

杉並区は現在、和田中地域本部をモデルとした「学校支援本部」を全区立小中学校に設置することを計画していますが、もし仮に、今後他校でも和田中に追随してPTAを支援本部のなかに組み込んでしまうなら、学校内での保護者と教員の自由で対等な発言の場はなくなり、学校は上からの一方通行となって、活力を失うでしょう。私たちはそれを恐れます。

現在PTAには「役員のなり手がいない」などいろいろな問題があることも事実ですが、

他方PTAに求められる役割はますます大きくなっています。

したがって、私たち区民は、区立小中学校PTAをもっと充実、発展させるべきであると考えますし、そのために努力したいと思います。

同時に、杉並区教育委員会に対しては、安易に「PTA廃止」論にのらず、自主的な社会教育活動としてのPTAを尊重し、いっそう支援すること、および、PTAについての区民の理解が深まるよう努めることを要望します。

2008年4月

よびかけ人（区内公立学校PTA会長経験者）

石崎あつ子（沓掛小・杉小P協） 糸井玲子（杉九小・東原中・杉中P協）
岡本波津子（浜田山小） 沖野章子（向陽中） 長田恵美子（和泉中）
斉藤美恵子（杉並高定時制） 清野初美（向陽中・豊多摩高） 田端和香子（高円寺中）
都築准子（西宮中） 東本久子（久我山小） 鳥生千恵（高井戸中）
中村平治（杉一小） 福田一美（西宮中） 松林潤子（富士見ヶ丘中）
真々田ミツエ（杉三小・高南中） 森内和子（沓掛小）

ご賛同いただける方は下記にご署名ください。（第一次締め切り5月20日）
連絡の必要な方は電話・住所などをお書きください。

賛同署名は、FAXにてお送りください。

送り先 FAX 03-5932-6612(とりう)

----- キリトリ -----

「PTAアピール」に賛同します

氏 名	所属(学校PTAなど)または市区町村のみお書きください。